

大阪故鉄 諸福営業所が11月に開設20周年

～環境・安全対策にこだわり次の時代に備える～



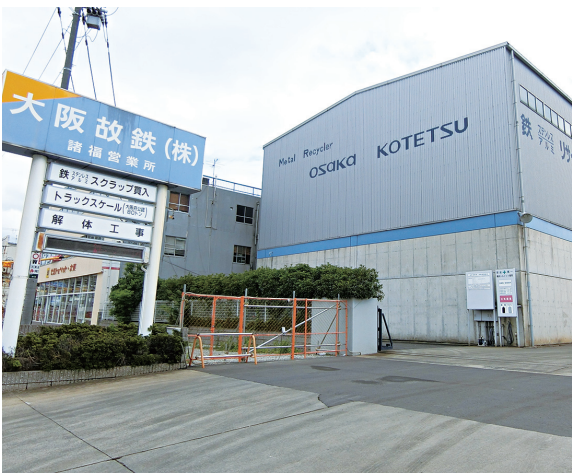
諸福営業所スタッフの集合写真

大阪故鉄(本社)大阪市住之江区、矢追徹夫社長)の諸福営業所(大阪府大東市諸福7-4-38、矢野博之所長)は11月4日に開設20周年の節目を迎える。開設に際し、21世紀の金属リサイクル事業が近隣や環境との共生が不可欠との判断から様々な環境対策をいち早く取り入れ、府内における都市型ヤードのモデルとして存在感を発揮してきた。創業以来、業界の多様な変化を予測して変革を遂げてきた同社は将来像を描く上で、「次の10年」に向けて環境変化に柔軟に対応できる基盤づくりをすすめている。

早くから環境対策優先し 社会的信頼と品格備えた工場

大阪故鉄は諸福営業所を開設する前までは本社と深江工場の2拠点体制であった。しかし、深江工場の老朽化がすすむなか、ヤード敷地が1000㎡余りと手狭なだけでなく、トレーラーの入出荷が不可能だったこともあり、荷受け及び荷捌き能力を最大限に発揮できる工場として、深江工場の閉鎖に替わり、1998年に4600㎡の敷地を有する諸福営業所を開設した。本社と深江工場が交通の便に恵まれなかった教訓を活かし、諸福営業所は交通量の多い中央環状線と交差する大阪生駒線沿いの幹線道路を選択。客を呼び込む外

食産業的発想の好立地と老舗のネームバリューが持ち込みの増加という大きな反響を呼んだ。諸福営業所が誇れるのはアクセスだけではない。開設当時の98年は景気自体が冷え込み、鉄スクラップ価格も大きく陥没していたが、矢追社長は21世紀の金属リサイクル業界が近隣住民や環境との共生が社会から求められることを予見し、未来



各種環境対策を率先して取り入れてきた諸福営業所

への環境投資を積極的に打ち出したことにある。防音、防振は近隣に徹底的に配慮する形で、①ギロチンなど機械下に直径60cmのコンクリートパイプを10数本も打ち込み②建屋には高さ6m、厚さ30cmの鉄骨コンクリートで囲み③壁面には遮音材を貼り付け、天井屋根裏には吸音材を吹き付けた。社会的信頼を醸成するための費用は一切惜しまない最先端の都市型ヤードは注目を集め、その後、府内の同業他社が工場新設やリニューアルに相俟って、諸福営業所をモデルにレイアウトや環境対策などを取り入れたのは有名な話だ。

取得。当時の扱い量はすでに処理能力を超えていたが、加工処理設備の増強は行わず、「次の10年」を目指して、工場前庭のグリーンベルト化や防音・防塵設備の増強に費やし、企業としての社会的信用を高めることを優先する同社らしい取り組みがすすめられてきた。

で取引のあった大阪故鉄に声をかけてもらい、入社してから20年を迎えます。前職では副資材や合金鉄を担当していたため、スクラップの商権がない私を採用してくれた恩義に報いることを糧に業務に取り組んでいます。

業界環境の変化を予見し 次代への基盤づくりに着手

同社は1946年に先代の矢追欣爾氏が個人商店を創業し、48年に住友金属工業の直納指定商となり、71年には住之江区に現在の本社へ移転。98年に同営業所を開設して以降も地歩を固めていき、今も現状に甘んじることなく、将来への構想をすすめている。現在、同営業所の前面道路は来年の完成に向けて拡張工事が行われている。これに伴い、持ち込み客のさらなる増加が期待できるほか、開設以降、非鉄などの扱

品種も多様化している。また、昨年から20～30代の現場、営業、事務合わせて、本社3名、諸福営業所3名の計6名を新たに採用している。同社は異業種から転身してきた20～30代の人材が多く集まり、類稀なチームワークと少数精鋭が成長の原動力となりつつも、かつての若手が40～50代となり、年齢の空洞化が目立つようになっていた。

これまで若手が活躍してきたように、若い力を発揮するには同世代が集まっての仲間意識の必要と人材育成には時間がかかることを知るからこそ、今のうちに未来への基盤づくりに着手し、スムーズな世代交代を図ろうとする狙いがある。未経験の人間にとって、業界に身を置くことへのハードルは決して低くないが、異業種を経てきた中堅社員もそこは熟知しているため、業務を丁寧に指導し、定期的に安全講習会などの研修制度も取り入れている。未経験のハンデは業界内の知名度や評判の有無も密接に

関係してくるとされるが、同社では早くから取り入れてきた環境対策や同業との軋轢を生じさせない営業方針で周囲からの信頼が厚い点でも、業界内で築き上げたバックボーンが充分に備わり、これは若手社員にとって大きな強みにもなる。府内で抜群の知名度を誇る同社も将来の安寧は約束されていない。業界内における変化のスピードが早く、将来像が見渡す限りからこそ、次代への会社づくりを全社一丸ですすめており、陣容の厚みを増した同社は中堅と若手の融合でさらなる成長路線を描いていく。

平成19年4月に本社から異動になり、22年4月に諸福営業所所長に就任しました。オープンから20年、特に近隣からのクレームも無く順調に稼働しています。これは開設時に防音・防塵設備を万

大いに期待しています。和気あいあいとした風通しの良い職場で、何でも相談しやすい動きやすい環境にあります。扱い数量は戻ってきましたが、今後スクラップの発生が増える見込みは少ないと考えています。次のステップとしては数量を追わず適正価格で対応することをコンセプトに、さらなる品質管理の徹底を心掛けていきたいです。そして、安全第一をモットーに美観を整えるなど近隣対策を万全にし、企業の社会的信用を高めることを継続し、企業の品格・品質の実現を徹底していきます。

安全第一で企業の信用を高める

ヤード前面道路の拡張工事が完成する予定で、これを機にヤードのリフレッシュを図ります。非鉄など取扱い品種が増えているため、現在は駐車場として使用している土地を活用し、建屋の建設やレイアウトの変更を考えたお客様への訪問をいたしてお客様の納得を促しています。営業は人との繋がりが非常に大切な職種であり、故鉄というネームバリューを後ろ盾に、成果を出すべく取り組んでいます。

採用の恩義を成果で報いる

普段から誠実なお付き合いをしていくことで、お客様から助けてもらうことも多々ありました。また、加価値を高めるためにも、品質管理を怠らないように心掛けています。体力だけでなく、顧客対応で精神的なプレッシャーもあります。ありますが、それ以上に機械の運転が好きなので、苦にならないですね。諸福営業所はスタッフ全員が仲良く、本心に働きやすい環境です。本社のスタッフとも交流があり、恒例の飲み会を楽しみにしています。

自分に合った仕事ができる

計量や伝票処理の事務職をしています。前職は建設関係の事務をしていたので、スクラップ業界のことも知っていました。入社前は少し硬いイメージだったのですが(笑)、仕事の面では柔軟に様々なことをレクチャーしていただいていたので、働きやすい環境に感謝しています。

アットホームな職場環境

事業では、計量や伝票作業でスムーズに対応できるようなお客さんからのありがたい感謝の言葉が何より嬉しいです。2004年9月の入社後から諸福営業所に勤務していますが、先輩社員が何を聞いても親切に答えてくれ、本当に面倒見の良い人たちばかりで、男女問わず本当にみんなアットホームな雰囲気です。



杉本雄飛さん 現場担当



丸岡英樹さん 営業課長



矢野博之さん 所長